

入選

中島 碧惟(なかじま あおい) 第三小 1年生

作品名:もぐらにあいたい

図書:もぐらはすごい

ぼくがーばんすきなどうぶつはもぐらです。ぼくもすなばや土をほることが大スキで、ようちえんのころすなばのそこのシートまでほりました。もぐらづかを見つけると、もぐらにあえるのかなとわくわくしながらほりかえます。もぐらにあいたい。たまどうぶつこうえんに八十かいもかよってもぐらにあいにいたり、もぐらのぬいぐるみとまい日いっしょにねたりして、ぼくがじぶんでもぐらを見つけないのに一どもあえません。ぼくはもぐらのことをもっとしりたいとおもい、「もぐらはすごい」をよむことにしました。

この本をよんで、どうしてもぐらにあえないのかわかりました。もぐらにはアイマーキかんというものがはなさきにあって、かすかにふれたり、くうきのゆれをかんじたりすると、さわったものがなにかをすることができるし、きけんかどうかもわかるそうです。ぼくがどんなに土をほっても、にげていたのだとおもいます。

でも、もぐらにであうチャンスがあったのです。はるにうまれたもぐらの子どもたちは、なつになるまえにおかあさんのすからでて、ひとりでじぶんだけのすみをさがしにいくそうです。土の上にてべつのもぐらがすんでいないところをさがしだし、そこではじめて子どものもぐらはじぶんの手でトンネルをほってたったひとりでくらすのです。あたらしいすみをさがしている子どものもぐらになら、ぼくもあえるのかもしれない。

それにしてもたったひとりでくらすなんて、もぐらはすごいなとおもいました。ぼくはまだおうちにいたいし、こわいしさみしいです。ごはんだってどうしたらいいのかわかりません。でもいつかぼくが大人になったらひとりでいきていけるように、七さいの目ひょうは「じぶんのことはじぶんでする」にしました。いまがんばっているところです。がっこうのじゅんびをじぶんでそろえたり、しょうぎセンターでおとうさんがいなくても、あいさつしたりひとりでさしたりできるようになりました。それから、じぶんのいけんはじぶんでいうこと。これがぼくにとって一

ばんむずかしいけれど、ゆうきをだしてがんばります。

おーい、もぐら！ぼくはいじめたり、つかまえたままになんかしないよ。あたらしいすみかなら、ぼくのうちのにわがおすすめだよ。きみがすきなミミズやコウガイヒルもいるよ。それにちかくには、山田川がながれている。きみっておよげるんでしょ。うちのにわにはもぐらづかがないから、ほかのもぐらもいないんだ。まってるよ！おたがいがんばろうな。